

## 【樹木の部屋】

### イヌマキ (マキ科マキ属 Podocarpus macrophyllus)

**和名**：イヌマキ (犬榎) クサマキ (草榎) **別名**：マキ、クサマキ (臭マキ)

**英名**：yew plum pine、buddhist pine、fern pine

マツ目 常緑針葉高木

**原産地**：日本、中国、台湾

**花言葉**：慈愛、色あせぬ恋

**花色**：黄



← 写真-1 イヌマキの樹形例(剪定前)

撮影日：2020年06月25日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

▽ 写真-2 イヌマキの小枝

撮影日：2020年06月16日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



↓ 写真-3 イヌマキの樹肌

撮影日：2020年06月25日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん





← 写真-4 イヌマキの幼果

撮影日：2020年06月16日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

▽ 写真-5 イヌマキの葉

表(左)、裏(右)

撮影日：2020年06月16日

採取場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



↓ 写真-6 イヌマキの花托(赤)と胚珠(緑)

撮影日：2020年11月30日

撮影場所：奈良県王寺町にて

撮影者：M さん



庭木としてよく植栽され、庭園などにも多く植栽されている樹木の一つです。

イヌマキは雌雄異株で高さ 20m ほどになる常緑高木です。若い枝は柔らかく、刈り込みにも耐えるため、人工樹形に仕立て庭木や生垣として利用されています。また、防火樹・防風樹・防音樹として屋敷林や畑の防風

林等に利用されています。

開花期は5月から6月で、雄花は前の年の枝に多数つき、黄色く穂状に垂れ下がります。雌花は1 cmほどの柄の先に小さな包葉があり、その中の1つが伸びて、その先端部に胚珠を含んでいます。胚珠を含む部分が膨らんで種子となり、その基部も

丸く膨らみます。この膨らみは花托と言われ、赤く熟せば甘味があり食べられる偽果です。種子は緑色になって白い粉を吹きますが、毒成分(イヌマキラクトン)を含んでいるので、誤食すると嘔吐や下痢を引き起こすので要注意です。全体としては緑と赤色の団子を串刺しにしたような姿となります。種子はまだ樹上にあるときから発芽を開始することがあり、これは胎生種子と呼ばれています。

樹皮は白っぽい褐色で、細かく薄く縦長に剥がれます。茎は真っ直ぐに伸び、枝先は上を向きますが、大木になると枝先は下垂します。葉は厚みのある細長い楕円形で、先端は尖るが触れてもチクチクしない。長さ10～18センチ、幅は最大で1センチほどになり、互生(枝から互い違いに生じる)します。葉の縁は鋸歯(ギザギザ)はなく全縁です、裏面は黄色を帯び、中央の脈が隆起しています。

イヌマキという名の由来は諸説あるそうですが、上品なイメージを持つコウヤマキをホンマキと呼ぶのに対して、葉や姿形が劣る本種をイヌマキと呼ぶようになったというのが一般的な説だそうです。

### 剪定

5月と9～10月の年2回を目安に、毎年剪定をすることが大切です。枝を伸ばす力が強いので、放っておくと四方八方に広がって樹形が乱れてしまいます。また、病気や害虫の被害にも合いやすくなってしまいます。

寒さに弱いので、冬になる前に剪定はすませ、樹形は、松の植木のように弧を描くイメージで仕上げるとよいと思います。

剪定のポイントは

1. 勢いよく伸びる枝は根元から切り落とす。
2. 伸びすぎた枝や混み合っている箇所を間引き、樹形を整える
3. 変色した古い葉っぱを取り除く
4. 株元に生える細い枝を全て取り除く

増殖：種まきと挿し木で増やします。

種まきは、10月頃に採取した種をすぐまくか貯蔵しておき翌年の3月にまく。

さし木は3～4月、9～10月が適期です。春に行う場合は前年に伸びた枝を、秋に行う場合はその年に伸びた枝を10～15cmほど切ります。切り口を2時間ほど水に浸けた後、さし木用の土にさします。根が出るまで土が乾かないよう注意してください。

### <ちょっと一言>

よく似ている樹木にラカンマキが有ります。

(マキ科イヌマキ属 *Podocarpus macrophyllus* var. *maki*)

ラカンマキは中国原産でイヌマキの変種です。イヌマキより葉が小さく密生します。

樹高も5mほどで生育が遅い。そのため庭木としての観賞価値はラカンマキのほうが高く評価される。増殖する場合は同じ形質の苗木を得るためにさし木で増やします。